

育ちのおとも

幼児期～児童期の
育ちを丁寧につなぐ
手がかりに

Message



このリーフレットは、幼児期～児童期にかけての「子どもの育ち」を、丁寧につないでいくために、幼稚園や小学校の教員がどのようなことを意識して実践していくか、その手がかりとして作成しました。

子どもたちの周囲にいる大人として、その育ちに寄り添っていく姿勢の大切さを込めて、「育ちのおとも」というタイトルにしました。また、このリーフレット内にまとめた一覧表の内容も、大人の側が考えた教育に子どもを当てはめるのではなく、幼児期～児童期にかけての子どもたちに「おとも」するものとして、位置付けています。

取組について



これまで、**幼稚園**では5歳児の年間指導計画において小学校教育とのつながりを踏まえたり、**小学校**では入学当初の生活を支えるスタートカリキュラムを作成したりしてきました。一方で、互いに指導計画や子どもの姿を共有する場をもつことが難しく、子どもたちには**幼稚園**から**小学校**に生活の場が移る中で、新たな環境で過ごすことに不安や緊張などの気持ちを抱く姿もありました。

そこで、子どもたちが安心して生活を進めるための基盤づくりを協同で行うため、**幼稚園5歳児**から**小学校**

校1年生への育ちのつながりとそれを支える在り方をまとめることにしました。幼稚園での子どもの姿と小学校での子どもの姿を見合ったり、教員間で意見交換したりしたことを基に、今、目の前にいる子どもたちの生活がその期の生活として安定、充実したものとなることを目指して作成を進めました。

今回の取組をきっかけに、作成されたものを手がかりとしながら、実際の**幼稚園・小学校**での生活として具現化することを継続的に取り組んでいきたいと考えています。

※**幼稚園**からは各学年の教員、**小学校**からは生活科担当の教員や1学年の教員を中心に、作成のメンバーとなっています。

「育ちのおとも」ができるまで

互いの保育と授業の様子を参観し、情報共有を行う

参観での気付きや用語等についての共通理解を進めました。



幼稚園・小学校で計画を作成する

各期の子どもの育ちのつながりをイメージできるよう、**幼稚園**の長期指導計画（年間・期）の項目を参考に作成を始めました。進捗はメール等で伝え合い、互いに気づいたことを共有しながら作り進めました。



作成したものを持ち寄り、意見交換を行う

話し合いは各期の子どもの姿やねらいを明確にすることを中心に進めました。認識のズレがある内容や新しく追加する項目については**幼稚園・小学校**での考えを伝え合って検討を行い、認識のすり合わせを行いました。



幼稚園・小学校で再検討する

意見交換を基に、**幼稚園・小学校**それぞれに項目や内容について再検討を行いました。





育ちのおとも



一覧表の項目について

子どもの育ち 幼児・児童の実態

子どもの姿から、2年間を8つの期に分け、各期での子どもの育ちを記載しました。これまで**幼稚園**では、「期」という括りを用いながら計画を作成していましたが、**小学校**でも、子どもの育ちが変容する大きな括りを改めて捉え、1年の中で4つの期を設定しました。また、**小学校**では、初めは入学に対する前向きな姿だけが取り上げられていましたが、それぞれの期での不安や緊張など、子どもたちのありのままの姿を記入することを意識し、様々な面から子どもの姿を捉えられるようにしています。

目指す育ちの方向 ねらい

幼稚園では期ごとにねらいをたてています。**小学校**でも、1年生の生活に関わる教員が同じ意識の中で生活や学習を支えていくための指針となるものであることを共有できるように項目を追加し、各期にどのような育ちを期待しているかについて記載しています。

どんな生活をしている? 教科や活動・環境や教材

ねらいをふまえて、各期でどのような経験が必要であるかを具体的に示しています。**幼稚園**では生活や遊びの様子、**小学校**では生活科の学習内容を中心に、学校生活や各教科等とのつながりを記載しています。**幼稚園**の指導計画では「ねらい」を実現するための「内容」を設定しますが、今回の一覧表ではこの項目内に含める形にしています。

先生は何をする? 環境構成や関わり方

どのような関わりをするか、どのように環境を整えるかを記載しました。**小学校**では、環境構成と教師の関わりについて分けて作成を進めていたため、一つに合わせる時にもその意図が伝わるよう、2段に分けたまま記載しています。

どのように振り返る? 評価の観点

子どもたちがどのような姿を見せていましたか、どのような姿が生み出されてきた状況はどのようなものであったか等の視点から、子どもの育ちの様子を見取ったり、教師の指導の改善に生かしたりするための視点が記載してあります。この項目の作成にあたっては、**幼稚園**と**小学校**で用語の認識の違いが大きかったため、双方の「評価」に対する認識を伝え合いながら、どのように子どもの育ちを見取り、どのように関わってきたか、という教員側の視点であることを共有しました。「できた-できない」という評価ではなく、その時期の過程を捉えていけるように留意しています。



※「教育目標」については、このリーフレットの最終ページに掲載しています。

※「主な行事」についても、当初は記載する予定でしたが、日常の子どもの育ちを重点に置くことを優先し、紙面内の情報量が過多とならないよう削っています。





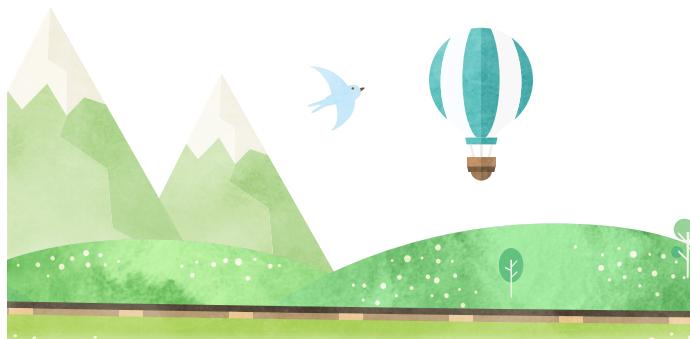
4月～5月上旬

- 進級に期待する時期
- 進級に緊張する時期
 - ・保育室や戸外の遊具などの環境や、担任が替わることで、新たな気持ちを感じる。
 - ・進級の期待や嬉しさをもつ一方、気負いや緊張感も見られ、行動を模索する姿がある。
 - ・次々と興味が移ることが多いが、次第に安定感をもって遊ぶようになる。

- めざす育ちの方向
ねらい
- 年長児になったことへの喜びや期待をもち、すすんで生活していこうとする。

- どんな生活をしているの?
遊びや活動・環境や教材
- 新しい環境に自分から関わり生活の場を広げる
 - ・他の保育室を見に行く
 - ・なかよしグループの3歳児と一緒に登園時の活動をする
 - ・築山周辺で遊ぶ（斜面を滑る、土を触ったり水を流したりする）
 - 学級の友達や先生と一緒に継続した活動に取り組む
 - ・新入園児と関わったり、歓迎する気持ちをもったりする
 - 園庭で遊ぶ
 - ・友達と一緒に戸外で体を動かす（サッカーボール、鉄棒、巧技台）
 - ・鬼遊びなどをする（氷鬼、リレー）
 - ・料理に見立てて作る（土、水、草、すり鉢）
 - ・自然とかかわる
 - ・砂場の砂を掘る、盛る（大型スコップ）

- 先生は何をするの?
環境構成や関わり方
- 新たな人やものへの関わりが、それぞれのペースで積み重なるように、落ち着いた生活を進め、進級当初の緊張を和らいでいく。
 - 入園式や新入園児に関わる機会をつくり、年長児として年下の友達に関わりたいという意欲を、具体的な活動につなげる。
 - 保育室や戸外遊具置き場に、4歳児末とは異なる遊具、用具を整え、進級の嬉しさを遊びの中でも実感できるようにする。
 - すこしやすい陽気の中で、心身共にのびやかにできるように、戸外の遊びや活動を広げていく。



- どのように振り返る?
評価の観点
- 進級の喜びや期待が、具体的な遊びや活動の充実へつながるように支えられたか。また、一人一人に丁寧に応じることで安定した気持ちにつなげたか。
 - 新たな人（担任、新入園児）やもの（保育室、遊具用具、自然）への関わりが、それぞれのペースで積み重るように、環境を整えたか。

5月下旬～9月

- 遊びの興味がさらに広がる時期
- 難しいことにも挑戦してみようとする時期
 - ・落ち着いて一つの遊びをする。そこに友達や先生と一緒にいきなり遊びが続く。
 - ・意欲的に体を動かし、大勢で遊ぶ面白さや競う面白さを感じ組む。
 - ・植物や小さな生き物などへの関心が高まり、自然とよくかかわる。

- めざす育ちの方向
ねらい
- 自分の気付きやアイディアを大切にし、友達と共有しよう。
 - 学級やグループの一人として活動することに意欲をもつ。

- どんな生活をしているの?
遊びや活動・環境や教材
- 栽培など自然にじっくりと関わる
 - ・畑に夏野菜やサツマイモの苗を植え、収穫する
 - ・畑の世話をを行う（水やり、雑草取り）
 - 水遊びをする
 - ・プールで体を動かす
 - ・道具を使う
 - 園庭で遊ぶ
 - ・砂や土で作る、見立てる（塩ビ管、桶、水）
 - ・ルールのある遊びをする（リレー、どろけい、氷鬼）
 - ・友達と一緒に体を動かす（長縄、竹馬、築山）
 - 室内で遊ぶ
 - ・箱積み木で場を作る、ごっこをする
 - ・食べ物を作る、ごっこをする（ボンド、紙類、紙粘土、絵の具）
 - 遊び方や作り方などの考えを聞き合いながら、友達と遊ぶ

- 先生は何をするの?
環境構成や関わり方
- それが気付きやアイディアをもつことができるようになると遊びや活動をすすめる機会つくる。
 - 個々の好きな遊び、いろいろなグループごとの活動、遊びや活動などを、多様に組み合わせて生活すること、同士の関係の深まりにつなげる。
 - この時期ならではの戸外での体験が積み重なるように、水遊び、自然と関わる遊びなどを進める。



- どのように振り返る?
評価の観点
- じっくりと遊びや活動をすすめる状況と、その中で幼児やアイディアをもつ状況を整えることができたか。
 - 栽培、自然、水、運動など、この時期ならではの戸外で重ねられる環境であったか。

5歳児

ることで、
ながら取り
わりながら

うとする。
。

達ぶ

に、じっく
学級での
とで、幼児
栽培活動、

兒が気付き
の体験を

10月～12月

- 目的を共にしながら友達と取り組む時期
- 試行錯誤しながら取り組む時期
 - ・互いにいろいろな意見を出し、これまで以上に、じっくりと遊びを進めようになる。
 - ・遊びの中で起きる様々な考え方や思いのぶつかり合いも、どうにか自分たちで解決していく。
 - ・遊びの中で、自分なりの目標をもち、友達と一緒に取り組むことが増える。

- いろいろなことに興味をもち、試しながら取り組んだり、やり通そうとしたりする。
- 生活する中で、友達と考えをよく伝え合おうとする。

1月～3月

- 修了と就学にむけて自信をもつ時期
- 修了と就学に向けて不安をもつ時期
 - ・表現活動の中で、意見を出し合い、意欲的に取り組む。
 - ・みんなの中で一緒に活動したり、力を合わせてやり遂げたりすることに、喜びを感じる。
 - ・修了や小学校への就学に関する話題が、会話の中に増え、具体的な生活の変化を感じ始める。

- 友達と相談したり分担したりしながら、遊びや活動を進めていくとする。
- 修了や進学を感じ、いろいろな人への感謝と自分に対する自信をもつ。

- 友達と目的を共にしながら、一緒に遊んだり活動したりする
 - ・みんなで運動会の準備をすすめる（遊びを考える、進め方を考える）
- 体を動かして遊ぶ
 - ・運動会の競技の用具を使って、遊ぶ
 - ・いろいろな動きを試す
 - ・他学級の幼児と一緒に遊ぶ
 - ・わらべ歌遊びをする
- 自分たちで場を整えたり、必要な物を工夫したりしながら生活。
 - ・やりとりしながらごっこなどをする
 - ・思い思いに描いたり作ったりする（紙類、紙粘土、編み物）
- ものの仕組みを生かしながら遊びを進める
 - ・砂、土、水を使って作る、見立てる
 - ・色水を作る（オシロイバナ、すり鉢、透明な器）
 - ・秋の自然物を使って遊ぶ（ドングリ、松ぼっくり）
 - ・樂器を鳴らす

- 正月遊びをする
- 生活のいろいろな場面で、友達と同じ目的をもって活動に取り組む。
- 音楽や動き、言葉、造形などいろいろな方法での表現に友達と一緒に取り組む
- いろいろな表現に触れる（歌、劇、合奏）
- ・友達の表現を見る
- 季節の自然と関わる（霜、氷、雪、チューリップ）
- 園内のいろいろな人や場、ものに関わる
 - ・3、4歳児と一緒に遊ぶ
 - ・園内のいろいろな先生、職員の人と会話する

- いろいろな友達と一緒に遊びを生み出し、進めていくことができるよう、遊びの一員として加わりながら、幼児同士のかかわりを支える。
- 学級のみんなと一緒に目的を共にしながら、よりよい表現をしてみようとする意欲が高まるような機会をつくり、継続的に取り組む。
- 入園からこれまでの体験のつながりを捉え直し、さらに遊びの中で、友達と一緒に考える姿が生まれるように働きかける。
- 体を動かして遊んだり、自然と関わったりする姿が多く生まれるように、戸外の環境を整える。

- 友達と一緒に考えたり表現したりする過程を大切にし、同じ目的をもつ、分担する、教え合う、じっくり取り組むといった場面をつくっていく。
- 表現の会や修了記念製作などを通じて、いろいろな表現の方法にふれることができるようにする。
- 修了について感じたり、園での自分の成長や周囲への感謝を意識したりできるように、生活の具体的な場面を捉えて働きかける。
- 幼児期のまとめの時期を、それぞれが自信をもって毎日すごすことができるよう、ゆったりとした生活の流れを保障する。



- いろいろな友達と一緒に遊びを生み出し、その中で遊びをよりよくするために考えを出し合う姿が見られたか。また、そのような遊びを支える環境を教師も一緒に作り出すことができたか。
- これまでの遊びでの体験を基に、さらに遊びの中で、友達と一緒に考えられる状況を整えたか。

- 同じ目的をもつ、分担する、教え合う、じっくり取り組むといった場面が多く生まれる状況があつたか。
- 生活のいろいろな場面で修了について感じたり、園での自分の成長や周囲への感謝を意識したりする姿を、丁寧に支えられたか。
- それぞれの幼児が自信をもってすごす毎日を教師も共にしたか。

4月～5月

- 小学校入学に緊張する時期
- 小学校生活への期待をもち意欲的に生活する時期
- 小学校での学びが少しずつ自覚的になっていく時期
 - ・小学校生活への期待をもつ一方、友人関係や新しい環境に不安を抱く姿も見られる。
 - ・疑問がたくさん見られ、いろいろなことを調べてみたいという姿が見られる。

6月～8月

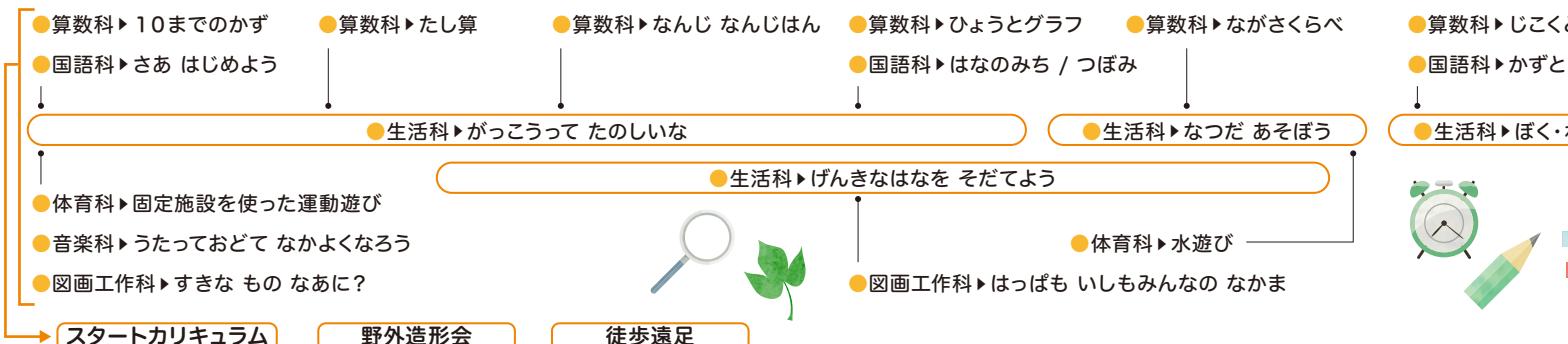
- 学校生活に慣れ、安心して様々なことに取り組む時期
- 友達と楽しく過ごしながら関係を作る時期
 - ・学校生活に少しずつ慣れ、自分の思いや願いをもって、活動しようとする。
 - ・一緒に遊ぶ友達が増え、集団で活動する機会が増えてくる。一方で、友達と折り合いがつかず、揉めてしまうこともある。

- 自分の思いや考
- 同じ目的に向か
- ・よりよい生活にな
- ・計画を立て、見通

- 幼児期の経験を生かしながら学習や生活に取り組む。
- 不思議に感じたことについて見通しをもって調べたり、自分の考えを友達に伝えたりしようとする。

- 学校生活になれ、自分の思いや願いを発揮しながら、やってみたい学習に取り組もうとする。
- 新しい友達と遊んだり学んだりしながら仲を深めていこうとする。

- 友達と一緒に考
- かって遊びや学



- | 通年 | ● 安心して学ぶことができるよう、掲示物や写真を活用した視覚支援を行う。 ● 年度末に自らの成長に気付くことができるよう、自由に思いを伝え合う場や雰囲気をつくり、言葉などで伝える喜びを感じられるようにする。

- 始業前に自由に使える道具や、くつろげるスペースを用意する。
- 年度初めは、担任と過ごす時間をもてるよう時間割を工夫し、安心して生活を始めたり、自分でやってみようとする気持ちをもったりするきっかけにする。
- 新たな場や友達、教師と過ごせるよう場と時間を十分に確保し、自分のペースで生活を進められるようにする。
- 教職員に学習のねらいや内容を周知し1年生が親しみ・興味・関心をもてるような関わりの協力を依頼する。

- 園の水遊びの環境を聞き取り、経験に合わせて材料、素材などの教材との出会い方を工夫する。
- 自ら思考したり試したりできるように、道具・材料の数や量、置き方を工夫する。

- 自ら活動できる所に準備したり素材の特徴に気
- 友達と共に目授業の流れを話向かえるようにし
- 友達との共通点ように、学習や活

- 学校たんけんを中心に、やってみたいこと、聞いてみたいことを引き出しながら学習を展開する。
- 園での経験を生かせるように、生活の決まりを一緒に考えながら進めることができるようになる。
- めあてを意識して学習に取り組んだり、見通しを立てて学習を進めたりすることができるようになる。
- 児童の思考の流れやめあての達成に向けた板書の工夫を取り組む。

- 学校行事に親しむことができるよう、行事の意味や価値を一緒に考えるようになる。
- 学びが自覚的になるよう、振り返り表現する活動を意図的・計画的に設定する。
- 人間関係を広げたり、深めたりするために、児童同士の関わりを見守り、場合によってはペア学習やグループ学習を取り入れる。

- 生活のリズムを立てたりすること
- 文字や数字へのや具体物などを
- 行事や係活動、なことにもチャレンジして過程をし
- 経験したことやかめたりして、伝
- 公園を利用したりする

- | 通年 | ● 思いや願いを大切にし「やりたい」「知りたい」と思えるような学習対象との出会いや、学習展開を工夫する。 ● 学習活動や学習形態を

- 安心して小学校で生活することができるように、園の経験との共通性を意識しながら環境を構成したり、一日の生活を計画することができたか。
- 導入の工夫を行うなど、児童の意欲の高まりを大切にしながら、学習のめあてを意識した授業を行うことができているか。

- 学校行事の意味や価値をじっくり話し合う時間を設定することができたか。
- 振り返り表現する活動を工夫し、自分たちの学びのよさに気付くことができるような指導となっているか。
- 授業の中で行われているペア学習やグループ学習などは、児童が互いに考えを話し合えるような適切な活動となっているか。

- 学習道具や環境構造を行なうこと
- 係活動や当番活動ができるとい
- 学校行事など、ひいて話し合う活

9月～12月

えを出し合い、学習や生活が充実する時期
って、友達と力を合わせて活動に取り組む時期
るよう、学級として、学びに向かって協力しようとすることが増えてくる。
しをもって活動することができるようになってくる。

1月～3月

- 相手の気持ちを考えて話したり関わったりする時期
- 1年間の活動を振り返って自信をもち、2年生になることへの期待が高まる時期
 - 周りの友達のことを気にかけ、互いに協力して生活しようとしている。
 - 1年間の成長を感じながら2年生への期待感を高めている様子が多く見られる。

えたり、話し合ったり、折り合いを付けたりしながら、同じ目標に向かって、生活を進めようとする。

- 互いの話に関心を持ち、相手の思いや考えを受けて話したり、聞いたりしようとする。
- 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分の成長に気付く。

じかん
かんじ

つたしにできること



運動会

- 算数科▶たし算 / ひき算
- 国語科▶しらせたいなみせたいな

- 生活科▶こうえんを たんけんしよう



- 生活科▶しづかと ともだち

- 音楽科▶みのまわりのおとに みみをすまそう
- 図画工作科▶おちばで へんしーん



- 国語科▶いいこといっぱい1年生

- 生活科▶もうすぐ 2年生



音楽会

学習の足跡をポートフォリオや写真等で残しておく。

ように、自由に使える材料や道具を種類ごとに分類し、使いやすい場所で、収集した物を分類して保管できるスペースを準備したりし、様々な付くようする。
標に向かって学習を進めることができるように、単元のゴールまでの話し合い、それらを可視化することで、自ら確認しながら学習や活動にしておく。
・相違点、自分自身のよさに気付けるよう、児童同士がよりつながる活動では適切にグループ活動を取り入れる。

戻しながら、学校での生活の仕方を児童と考えたり、2学期の目標をとで、2学期への期待をもてるようになる。
の関心や学びが充実していく時期なので、各教科や季節につながる本準備し、児童たちが自由に読んだり遊んだりできる場を設定する。
当番活動などへの取り組みを通して、友達と協力する楽しさや、苦手レンジしようとする粘り強さ、達成感を味わえるように、振り返り等をしっかりと価値づけ、自信につなげられるようにする。
想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり、伝えたいことが明確になるようにする。(生活科と国語科との関連)
り、遊んだりして公共施設の使い方やルールやマナー・利用したり、人々の存在に気付くことができるようになる。

工夫し、児童の伝え合う気持ちを引き出す。
子を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる。

構成など、児童が自分の思いや考えに沿って活動できるような授業ができるか。
活動など、児童が自分の力を発揮することができる活動を設定するか。
同じ目標に向かって学級で力を合わせる場面では、目指すゴールについて設定することができたか。

- 冬ならではの遊びの経験が発揮できるように、自由に使える材料や道具を種類ごとに分類し、使いやすい場所に準備する。
- これまでの学習や生活の足跡の掲示物を意識して、自ら自身の成長を振り返ることができるよう、ICTを活用するなど、掲示の仕方を工夫する。

- 自分の成長は、周囲の人々に支えられていることや内面的な成長に気付き、2年生への願いや期待感などをもつことができるようする。
- 一人一人の成長や取組の過程を認めながら、友達の成長への気付き、学級全体の成長を喜び合えるように、児童のつぶやきや発言を認めたり、広げたりする。
- 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。(生活科と国語科との関連)
- 自分たちの学びや経験を次の1年生に伝える活動を設定し、相手意識をもって伝えることの価値や面白さに気付く。

- 相手意識をもって関わることの価値を共有したり、授業や生活を通してそのような場面を見取って評価できているか。
- 各教科の学びのまとめや行事への取組を行う中で、一人一人の成長を価値付けることができているか。
- 自分や友達のよさや成長を自覚することができる場を設定し、進級に向けて自信や期待をもてるようにすることができているか。



育ちのおとも

＼埼玉大学教育学部／

附属幼稚園

教育目標

子どもの「自らのびる力」を育てる

具体的目標

子どもの「やさしさ」を育てる
子どもの「かしこさ」を育てる
子どもの「たくましさ」を育てる

5歳児の年間のねらい

よりよい生活に向かって取り組む中で、
自分の力を発揮したり、
友達のよさを認め合ったりする。



埼玉大学教育学部附属幼稚園

〒330-0061

埼玉県さいたま市浦和区常盤8-13-1

TEL: 048-833-6288

E-mail: kinder@gr.saitama-u.ac.jp

＼埼玉大学教育学部／

附属小学校

教育目標

勤労をいとわない自主的精神の旺盛な、
人間性豊かなよき社会人を育成する

具体的目標

「かしこく」

自主的、積極的に学習に取り組み、
考える子供

「あかるく」

あかるくのびのびと行動する子供

「なかよく」

仲間とともに力を合わせる子供

「たくましく」

健康な身体と強靭な意志力をもって、
ねばり強くやりぬく子供

1年生の年間のねらい

自ら進んで学習に取り組もうとする子
明るくのびのびと行動する子
友達と協力して仲良く活動する子



埼玉大学教育学部附属小学校

〒330-0061

埼玉県さいたま市浦和区常盤6-9-44

TEL: 048-833-6291

E-mail: fushomaster@gr.saitama-u.ac.jp